

くにしていしせき 国指定史跡 **天神山古墳** . くにしていしせき 国指定史跡 **女体山古墳**

国指定史跡 **天神山古墳**



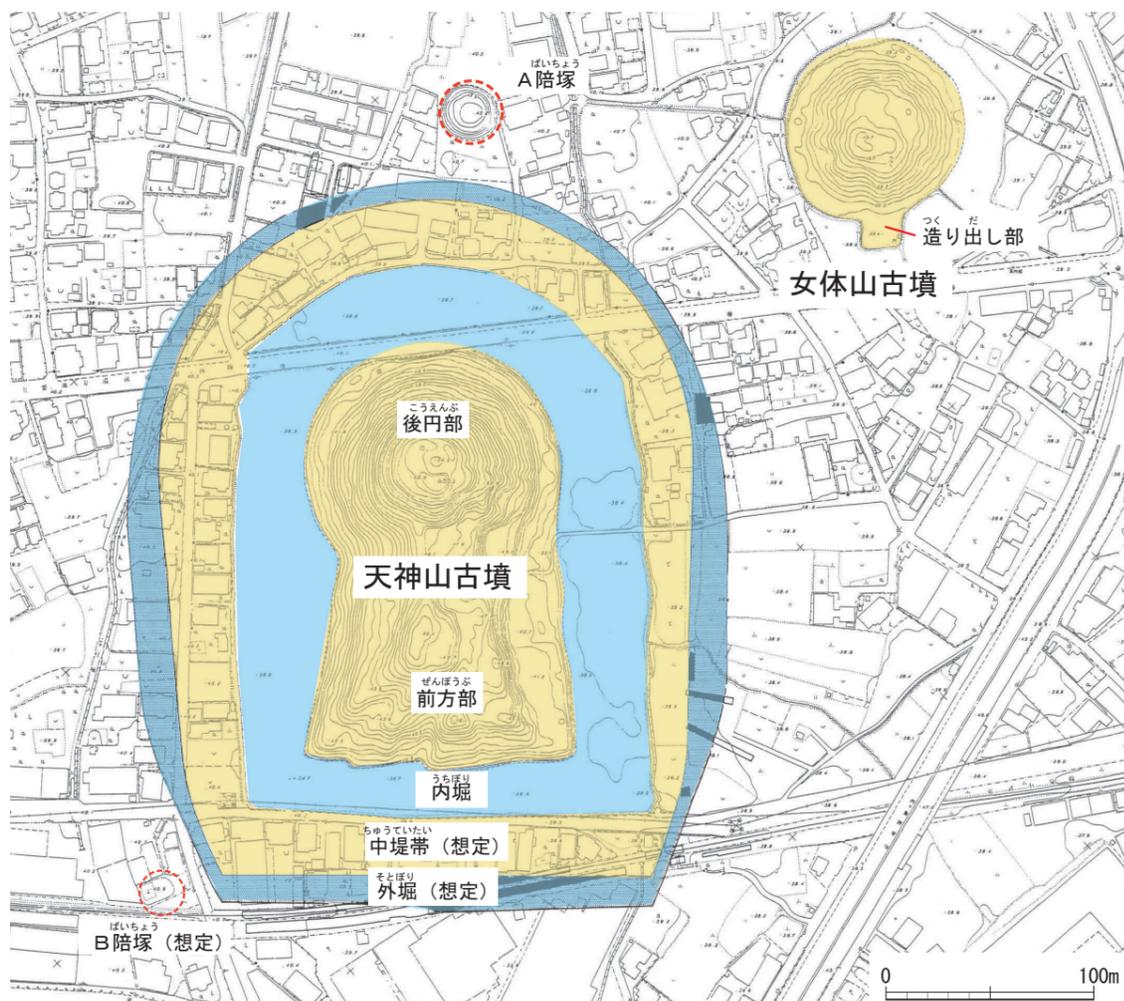
天神山古墳（西上空から）

天神山古墳は、東武伊勢崎線太田駅の東約1.2kmにある古墳です。全長約210m、後円部直径約120m、前方部前端幅126mの巨大な前方後円墳で、昭和16年1月27日に国指定史跡となりました。

墳丘は三段につくられており、表面は渡良瀬川水系で取ってきたものと思われる川原石で覆われているとされています。埋葬施設はすでに盗掘されており、石棺の一部が転落していました。

この古墳からは家形埴輪や水鳥形埴輪などがみつかっています。後円部の頂上には器財埴輪が、中堤帯には円筒埴輪がそれぞれ置かれていたと考えられています。この古墳が造られた時期は5世紀中ごろと推定され、葬られた人は畿内大和政権と強いつながりをもつ毛野国の大首長であったと考えられています。

※毛野国…おおむね現在の群馬県・栃木県地方をさす。



天神山古墳と女体山古墳の各部名称

天神山古墳のまわりには二重の堀が巡り、さらに北東と西に陪塚をもつ広大な墓域が形成されています。

※陪塚…大形の古墳の周りに計画的につくられた小形の古墳。



おおたしきょういくいんかい 教育委員会 教育部 文化財課  
 〒373-0495 太田市粕川町520尾島庁舎  
 TEL.0276-20-7090 FAX.0276-52-6080

## 天神山古墳の調査

これまでの調査で、天神山古墳の外堀や中堤帯の形が少しずつ明らかになりつつありますが、全体がわかったわけではありません。

これからも天神山古墳および周辺の調査をおこない墓域の全貌を明らかにしていこうと考えています。そして、私たち市民の財産である史跡を保存し、次の世代に引きつぐとともに、史跡を有効に活用できる方法を考えてゆきます。



発掘調査で見つかった外堀（南から）  
平成2年調査。



中堤帯で見つかった円筒埴輪（北西から）  
円筒埴輪が、割れた状態で見つかりました。中堤帯に並び置かれていたものと思われます。  
平成5年調査。



発掘調査で見つかった外堀（東から）  
平成8・9年調査。



発掘調査で見つかった外堀（東から）  
平成2年調査。

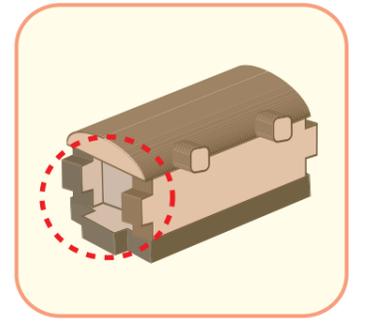
## 天神山古墳における出土遺物



水鳥形埴輪  
頭部だけが見つかりました。



ながもちがたせつかん  
長持形石棺の破片



長持形石棺  
(イメージ図)

5世紀代の畿内大和政権における大王の古墳、あるいは地方の巨大前方後円墳に採用されている石棺で、このことから畿内大和政権とのつながりがあり、強大な権力をもった毛野地方における首長の墓であったことがうかがい知ることができます。

## 国指定史跡 女体山古墳



女体山古墳（南上空から）

女体山古墳は、天神山古墳の東に造られた帆立貝形古墳（または造り出し付き円墳）です。直径約84mの円丘部に長さ約16m、幅約18mの造り出しが付いている古墳で、造られた時期は5世紀中ごろであると推定されています。（昭和2年4月8日国史跡指定）

天神山古墳と女体山古墳は、ほぼ同じ時期に造られていることや、同じ方向を向いて造られていること、設計企画に同じ尺度を用いている可能性があることなどから、2つの古墳の葬られた人たちの間には密接な関係があったと考えられています。